

塩化加里の流し込み追肥によるレンコン増収効果の実証

土壌中のカリウムが少ない露地レンコン圃場にて 7月に塩化加里を流し込むと増収する

研究の背景・目的

- 徳島県内の一部のレンコン田では、土壌中の加里含量(カリウム)が少なくなっています。
- 追肥として塩化加里をかん水とともに流し込む方法を提案し、その適切な量や時期を検証します。
- 現地ほ場にて、塩化加里の流し込み追肥試験を実施し、その効果を実証します。

研究成果の内容

- 温室内の試験で、Lサイズ以上のレンコンが最も多かった加里追肥時期は6月下旬で、この時期は露地栽培では7月上旬から中旬頃にあたります(図1)。
- 現地ほ場にて、7月上旬から1週間毎に3回に分けて塩化加里を計15kg/10a(加里成分で9kg/10a)流し込むと、収量が1.2~1.4倍になりました(図2)。
- 基肥施用前の土壌分析結果による塩化加里の流し込み判断の目安(暫定版)を作成しました。

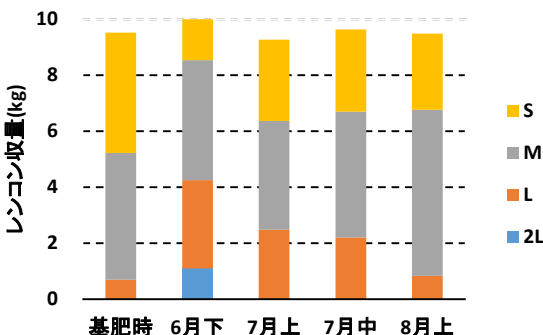


図1 加里の追肥時期がレンコン収量に及ぼす影響(温室条件)

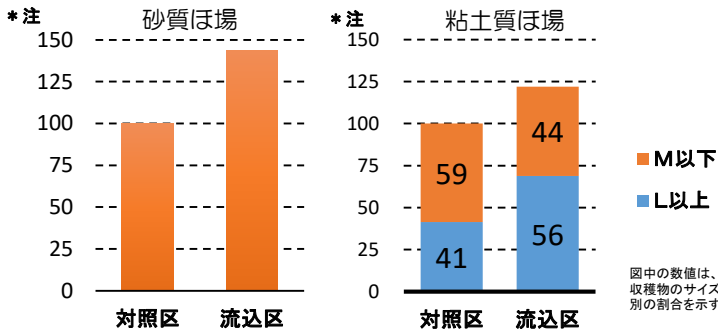


図2 塩化加里の流し込み追肥がレンコン収量に及ぼす影響

*注 対照区の収量を100としたときの数値

塩化加里の流し込み時期判断の目安(暫定版)

- 栽培条件・品種 露地・備中、ロータス
- 流し込み条件
土壌の種類(粘土質か砂質か)と、施肥前の土壌分析の結果による土壌中の加里含量(K₂O)、施肥設計時の加里全量の違いで施用効果が異なります。
- 流し込み時期 7月上旬~中旬

土壌の種類	施肥前の土壌中の加里含量(K ₂ O)(mg/100g)	増収効果
粘土質	15未満	あり
	15~30	小
砂質	20未満	あり

※ポイントおよび注意点

- 塩化加里の流し込みの合計量は20kg/10aまで。やり過ぎると減収します
- 流し込みは数回に分けて施用しましょう
例: 5kg/10aの塩加を1週間ごとに3回 計15kg/10a
- 塩化加里がほ場全体に回るように流し込みましょう
- 施肥設計で加里施用量が多い場合は、流し込みの効果は小さくなります

導入メリット

- 省力的な塩化加里の流し込みにより、レンコン収量が増加するとともにサイズアップも見込めます。
- 土壌分析や施肥の見直しを通じて、施肥技術の向上に貢献します。

生産者の皆様へ

- 本技術は土壌中加里含量の低い圃場に適用できます。基肥施用前に土壌分析を必ず実施し、流し込み判断の目安を参考に本技術の導入を検討してください。
- 塩化加里の量が多すぎると減収しますので、流し込みの合計量は20kg/10aまでとしましょう。また、塩化加里は数回に分けて分施しましょう。